

要ヶ丘



発行

海士町立海士中学校

住所 海士町大字海士九四四番地

TEL 08514(2)0744

E-mail ama-ji@town.ama.shimane.jp

『当たり前前』

『当たり前前』でできる生徒

校長 真野 幹

一学期は「凡事徹底」ということに重点を置いて取り組んでまいりました。

「凡事徹底」とは、誰にでもできることを、誰にも真似ができないほど徹底して行うことです。そこで、特に次の三点①時を守り、②場を清め、③礼を正すことに重点を置いて取り組んでいます。

「時を守る」ということは、集団生活をする上で必要なマナーであり、その人の信用にもつながります。中学校では、チャイムなしで生活しています。常に早め早めの行動ができています。

「場を清める」ということに関しては、清掃活動を中心に行なってきました。時間いっぱい一生懸命掃除する姿が見られます。また、生徒用のトイレは、いつ見てもスリッパがそろえてあります。心が整っている証拠だと思います。

「礼を正す」ということに関しては、特に挨拶を中心に取り組みしました。「いつでも、どこでも、だれにでも」気持ちの良い挨拶ができています。いろいろな場面をとらえて、さらに磨きをかけていきたいと考えております。

以上の三点は、社会人になっても必要とされることです。今後も当たり前前が当たり前前になるよう生徒の育成をめざしたいと思います。

一学期間、保護者、地域の皆様のご協力のおかげで、充実した教育活動ができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

修学旅行について

六月二十一日(火)～二十五日(土)の四泊五日で、二年生が京阪神方面へ修学旅行に出かけました。生徒の感想を紹介します

僕が今回修学旅行で意識しようと思ったことは、全力で「楽しむ」ということでした。そして、僕はこの旅行を全力で楽しむことができました。

USJやNGKなど、どちらもお客さんを楽しませるいろいろな工夫がありとても楽しむことができました。そのほかにも僕が生まれて初めて体験することがたくさんあり、どれもすごく楽しかったです。でもなんととっても



一番は、京都造形芸術大の発表です。発表の内容を自分たちで考え作るといふ面では子ども議会とあまり変わりませんが、初めて行った場所

で知らない人たちにプレゼンをするのはとても緊張しました。僕はこういふ知らない場所で知らない人たちと話すことが苦手です。でも、大学生の人たちが僕たちの発表にすごく反応をしてくれて、緊張したけどプレゼンをととても楽しむことができました。大学発表でも意識した「楽しむ」ことができて

とても良かったです。修学旅行での経験をきっかけにこれからの学校生活でもたくさんの人とコミュニケーションをとって生活していけるようにしたいです。

【二年男子】



中学校での修学旅行は、小学校六年生の時とは違った、新しい楽しさがありました。一日目は、奈良県に行つて東大寺を見物して奈良公園で鹿などを見て楽しみました。二日目は、班のみんなと

考えて計画した自主研修で京都の町に行きました。最後に班のみんなから「楽しかった」と聞けて良かったです。三日目は、京都造形芸術大学に海士町の魅力を発表しに行きました。みんな緊張していたけど、練習の成果が発揮できたおかげで「大成功」の発表となりました。



四日目は、午前中はなんばグラウンド花月に行

き面白いものや芸人さんをたくさん見て楽しみました。午後からは、みんなワクワクUSJに行きました。たくさんさんのいろいろな乗り物に乗って楽しかったです。今回の修学旅行では、声掛けなどをして最後まで時間をしっかりと守ることが貫き通せたので良かったです。マナーを守り、時間を守り、楽しい修学旅行になって良かったです。



【二年男子】

四泊五日で修学旅行に行きました。楽しかったことは、USJです。いろいろな乗り物に乗りました。その中でも、スパイダーマンが一番面白かったです。発表では、海士町について京都造形芸術大学で発表しました。グループのみんなと協力し、良い発表ができました。大学生と交流ができたことも良かったです。自主研修では、班のみんなと協力し、目的地まで無事に行くことができました。清水寺に行くときは、はじめ反対方向に歩いて行ってしまいました

たが、地図を見たり、人に聞いたりしたおかげで目的地までたどり着くことができました。今回の修学旅行では、たくさん楽しい経験をす



【二年男子】

ことができ、たし、たくさん学べることができました。これからの学校生活でも、修学旅行での経験や学んだことを活かして、みんなで協力して頑張りたいです。



【二年女子】

高校説明会について

六月十七日(金)に西ノ島町(黒木公民館・至誠館・隠岐支庁)で平成二十八年度島前地区高等学校等学校説明会が開かれました。説明会を行うにあたり、十三校の高等学校等に参加していただき、各校の説明を聞きました。生徒の感想を紹介します

それぞれの学校に目標があることがわかりました。その目標がわかって良かったです。また、最初は全くどんな高校かわからずに選んでいたけど、今日の説明会でいろいろわかって、しっかりと考えることができたので良かったです。

【三年女子】

四校の高校の説明をきいて、それぞれの高校の特徴や良いところがたくさんわかりました。でも、どの学校も勉強が大変だし入るのも難しいと改めて思いました。これから勉強を頑張つて、行きたい学校をしっかりと考えたいです。

【三年女子】

命の授業について

六月二十九日(火)の五、六校時、交通犯罪被害者遺族の江角由利子さんを講師に招いて命の大切さを学ぶ教室を行いました。以下に生徒の感想を紹介いたします。

今回の命の授業で私は、改めて命の重さを知ることができました。この世界には理不尽な理由で命を落とす人がいるということがわかりました。先日、バングラデシユでテロがありました。日本人七人が亡くなることがありました。私は、世界に貢献している人がなぜ殺されなければいけないのかと思いました。世界や日本に理不尽な理由で命を落としてしまう人がいなくなつてほしいと思います。私は、これからも自分の命を大切に、一日一日生きて行こうと思います。 【一年女子】

私は、相手の身勝手な行為で何人も人が亡くなつていくことを知り、とてもひどいことだと思いました。もし、自分や自分の家族がそういうことになったら、何で私なのかと思うだろうし、事故を起こした相手に恨みや怒りの気持ちを持つと思います。しかし、遺族の人たちは、亡くなった人の分まで前を向いて進んでおり、私はすごいと思います。また、色



々な取り組みをされていることも知りました。その取り組みをこれからも続け、後世に残してもらいたいと思います。誰かが亡くなつてしまうような事故が、これから「起きない」「起らない」世界になつてほしいと思いました。 【三年女子】

三年生海洋訓練について

スキューバダイビングは初めての体験で、始めは不安があったり緊張したりしていましたが、インストラクターの方の説明を受けたり、実際に海に入ると、緊張もほぐれてきて、楽しくダイビングができました。海の中では、多くの魚などを間近で見れて、深い場所まで潜ると、水面が空のように見えて幻想的でとても綺麗でした。また、はじめの説明で海での気を付けるべきことも教わることで良かったです。



ダイビングはこれからのまありでできない貴重な体験でとても良い経験になりました。 【三年男子】

七月七日、ずっと楽しみにしていたダイビングの授業がありました。私はもちろん「体験する」に丸をし、潜る気満々でした。でも、説明を聞いていくと、結構怖い部分もあって、入る直前は、呼吸器を離さずにいられるかとか不安なことしか考えていませんでした。でも、いざ深いところまで入って



くと、海の中は別世界で普通じゃ見ることのできない魚もいて本当に最高でした。この海洋訓練で学んだことは、楽しく海で遊ぶためには、知っておかなくてはいけないことがたくさんあるということです。不安だった耳抜きとかいろいろなることを学べて、本当に色々な意味で海ってすごいなと思いました。 【三年女子】

夏季休業中の行事について

- 県総体陸上【益田】
 - ・七月二十三日(土)
 - ★三年女子 一〇〇m 出場
- 県総体テニス【江津】
 - ・七月二十二日(金)
 - ★男子テニス部 個人
 - ・七月二十三日(土)
 - ★男子テニス部 団体
- アドベンチャーキャンプ
 - ・七月二十七日(水)～八月一日(月)
 - ★希望者
- 三年学校開放【於ランチルーム】
 - ・八月一日(月)～五日(金)
 - 九時～十一時三十分
- サマーボランティアキャンプ
 - ・七月二十六日(火)～二十七日(水)
 - ★三年生
 - ★PTA奉仕作業
 - ・八月二十一日(日) 八時～十時
 - ※雨天延期 九月四日(日)
 - ★全校生徒
 - 二学期始業式
 - ・八月二十二日(月)

○キンニヤモニヤ祭り
・八月二十七日(土)
※集合…レインボージェット乗り場
十七時四十五分

教員による随想

コーディネーターとして中学校に席を置いて2年目。今年は2つの小学校の総合的な学習の時間でおこなわれるふるさと学習にも足を運んでいるが、最近、私がより「海士っ子」に近づけたと実感できると行事があった。それは何を隠そう「歩くんジャー」である。

これは海士町の自然や地域の方、歴史を歩きながら全身で堪能する、というねらいが示されているが、五・六年生と一泊二日をかけておよそ三十キロにもおよぶ道のりを自分の足で歩く…私も一緒に参加することが決まった時点から、私の脳内では「これは絶好のダイエットの機会だ」という言葉が響き渡り、それをモチベーションに当日まで出来る限りの準備をして臨むことになった。試練は本番二週間前からやってきた。小学校の先生と一緒に下見で家督山に登ったのだ。ちよど雨上がりで足元が悪く、またそれも日々気力だけでカバーしている私にとつては、自分の体力のなさが露呈する苦しい道のりだった。あの時ほど軽々と登っていく他の先生方の背中が大きく見えたことはない。「やばい…当日大丈夫か?」本番1週間前は修学旅行の引率があつた。ピュッフェ会場で中学校の先生方が美味しそうにケーキを頬張る様子を横目に見ながら、泣く泣く食事をコントロールし、まるで大会に出る選手のように当日に向けてコンディションを整えていった。そしていよいよ迎えた当日。開会式を終えた後、救護担当の先生が誰よりも真剣なまなざしで私に向かって『救護にお世話にならないように体調に気を付けて…』と語りかけて下さる。それを笑顔でかわしながら、列の最後尾を陣取って私のチャレンジが始まった。道中、私の頭は「何が何でも完歩しなければ…」という決意でみなぎつていたが、それを揺るがすかのように子どもたちは『足が痛い』『近道したい』と自分の気持ちを素直に表現するのだ。心の中で何度も「それは私の台詞だ」と唱えながら、ひたすら無心で歩いた。コースは福井小を起点として北分大橋く宇受賀命神社く潮風ファームく明屋海岸く保々見く知々井が一日目。知々井の集会所で寝泊まりをした翌日、知々井く御波く海士中学校く福井公民館く家督山く福井小が二日目。子どもたちと励まし合いながら歩き続けるしかないのである。最後の家督山では暑さと疲れで体調が悪くなつた子どもも出てきた。子どもの荷物を背負いながら、背後の救護車に背中を押されながら一歩また一歩と歩みを進めた。二日目の午後三時、私のチャレンジは達成された。達成感を身体で表現する気力も体力も尽き果てていた私は、出迎えて下さった先生方・子どもたちの声に鎮静しかできなかった。家に戻った私は最後の力を振り絞って体重計に乗った。そして静かにガッツポーズをした。「努力は必ず報われる」…体重計という名の表彰台にあがり、私の歩くんジャーは幕を閉じた。